

## 2014年 九大山岳部冬山合宿報告

コメントの追加 [n1]: 必ずタイトルを付ける

### ◆はじめに

書式変更: インデント: 最初の行: 0 字

2014年12月26日から30日にかけて行った冬山合宿について報告する。

### ◆行動記録 (記録担当者の氏名)

12月26日 (1日目) 新穂高温泉～穂高平 天気: 雪

14:00に新穂高ロープウェイ駅から穂高平小屋へ向けて出発。天候はずっと湿った(?)雪がしとしと降っていた。西保俣林道への入り口が分かりづらく、14:20にようやく入り口へとたどり着く。林道にはトレースがあり、ゲートから砂防堤付近までラッセルはなかった。砂防堤付近からのラッセルは膝下程度であり、途中からワカンをつけて、歩いた。16:15に穂高平小屋に到着。テント設営を行い、17:00に中本先輩・村松先輩・光岡の3名はルート偵察およびデボへ出発、ラッセルは膝から腿ほどであったとの報告。尾根沿いにトレースを発見、尾根を少し上がったところにデボ(17:40)。永田先輩・山崎はテントに残り夕食作りを行う。17:30、OBの方々が穂高平小屋に到着。18:00にデボ偵察隊がテントに到着。その後、中本先輩・村松先輩でOBのデボ回収へ出発しテントに帰着(18:40)。21:00に就寝。

コメントの追加 [n2]: 雪がしとしとは言わない。「しんしん」である。

12月27日 (2日目) 穂高平～AC 天気: 晴れ

4:00 起床

6:00 出発

10:40 1946mピーク

15:45 2300mAC

4:00起床。いよいよ今日は西尾根に取付く。天気予報では明後日-29日から天気が崩れるので、今日中に2300mのACまで荷上げしなければならない。朝食はα米に麻婆春雨をかけたものだったが、個人的には今まで食べた山の朝食の中で一番美味しかった。美味しい朝食を食べればモチベーションも上がるものだ。テントを撤収し、6:00出発。まだ夜明け前であるが寒さはそれほど感じない。昨日つけたトレースをたどり尾根に取付く。デボを回収して間もなくトレースは消え、いよいよラッセルが始まる。ただ、思っていたほど雪は深くなく、膝～腰下くらいのラッセルが続く。尾根筋に上がるあたりから傾斜も増してきたので、先頭が空荷になってラッセルを進める。1900mあたりから傾斜は緩み始め、10:40、1946mピークを通過。膝くらいまでのラッセルが続き、2000mあたりから尾根が痩せ始める。このあたりから雪に埋もれた木・笹に足を取られることが多くなる。15:45、2300m付近の平坦地にAC設営開始。ACまでは終始、樹林帯であったが、一日中好天に恵まれ、樹間からのぞく笠ヶ岳、槍～穂高のスカイ

ラインが美しかった。明日の ATTACK に備えて、早めに夕食の準備を始める。夕暮れになると眼下に一面の雲海が広がり、皆思わず感嘆の声をあげてしまった。明日もいい天気になりそうだ。その後夕食を済ませ、19:00 ごろ就寝。

12月28日 AC ⇒ JP ⇒ 山頂アタック 天気: 晴れ

5:00 起床

6:20 出発

9:40 第一岩峰通過

10:20 JP 手前のピーク

11:00 JP

13:00 山頂直下のピーク (撤退)

16:45 AC

書式変更: インデント: 最初の行: 0 字

天気は快晴。絶好の ATTACK 日和。6時に BC を出発する。ペースを上げていきたいところであるが雪が深くラッセルがなかなか進まない。OB からもアタックなのだからノロノロするなど喝が入る。三時間程で第一岩峰に到着する。事前に目を通した山行記録では右から巻くとのことだったが、米澤先生から以前は直登したとのこと (先生にとって西尾根は今回で4回目)、雪が深いことを嫌って、やや左上してからルンゼを上がり直登することに。登りは問題なかったが下りはザイルを使用した。岩峰に上ったところでワカンをデポし、アイゼンに切り替える。スペースが狭かったので登る前の鞍部でやっておけばよかった。ここで永田が前日痛めた腰の不調を訴えたため一人で BC まで帰らせる。米澤先生がトップでフィックスロープを 80 メートルほど張り岩峰から抜ける。ジャンクションピークの一つ前のピークにて、時間を考慮してアタックは中本、村松の 2 名で続行し、一年生と OB は引き返すことに。さすがに森林限界を抜けると風が顔に痛いほどに叩きつける。それでいてクラストした地面にアイゼンがシャリシャリと刺さる音は心地が良いものだ。岩と雪のミックスを時折、残置フィックスを利用しながら抜ける。頂上の一つ前の 2860 メートルのピークにて時間切れとなり撤退することに。今思えば我々の技術と体力では彼処までが限界だったのかも知れない。アイゼンの爪が前の 2 本しか刺さらず、ピッケルもブレードが少しも入らないミックスを登るのは一手一手、一步一步が緊張の連続するものであった。事実、私はかなり精神的に疲れていた。帰りは来た道を引き返すのも恐ろしいので、とうか来た道を引き返していたら間違いなく滑落していたと思う…腹を括って谷を駆け下りることに。雪崩の危険も考慮したが、入山してからの積雪は少なかつたし、雪もしっかりしまっていたので。途中 150 メートルほど滑るもピッケルストップで制動できた。雪上訓練が活きたのであろう。一気に第一岩峰の取り付きまで下りデポを回収した後、かなり憔悴した状態で BC に帰り着いた。暖かい紅茶オレと塩胡椒がきいた豚汁が本当に美味しかった。無事に帰ることが出来て良かった。

12月29日 AC~穂高平 天気候：曇り時々雪

0400 起床

0620 出発

0700 雪洞

1000 穂高平

昨晚は雪が降ったため、夜中に時折テントに積もった雪をはたきながら眠った夜だった。予報の通り、この日から天気は下り坂に入ったようだ。昨日の内にアタックが出来たのは幸いだった。昨晚降った雪のせいでトレースは所々消えかかっており、赤旗や赤布を頼りに下った。私見だが、この西尾根は昨年の鹿島嶋槍ヶ岳赤岩尾根と比べ樹林帯の密度が高く道に迷いやすく感じた。尾根という山頂に集約する地形上の問題だろうか、登りよりも下りのときのほうが道に迷いやすい印象を受ける。7時頃に雪訓として雪洞を掘るが、雪の厚さが足らず断念する。途中2箇所でのポ地点でデポを回収しながら下る。この日は穂高平まで降りて一泊し、翌日下山の予定となっていた。そのため下山時特有の高揚感というものが半端で、いつもよりも落ち着いた心持であった。山崎は今日が下山日だと思っていたらしく元気だったが、今日が下山日ではないことを教えるととたんに勢いを失い、疲れを見せていた。人間気の持ちようが大事なのだと良く分かる。穂高平到着後は皆ゆっくりとテントで休んだ。光岡はテント設営後もしばらくかまくら作りに勤しんでいたようだ、元気なものである。穂高平では行きには見られなかった社会人の他の登山者客も多く見られた。明日以降の悪天候が気になっていたが、下山後年末・年始のニュースで北アルプスでの遭難者が相次いでいることを聞き、早めに下山した判断が間違っていなかったことを実感した。

書式変更：インデント：最初の行：1字

コメントの追加 [n3]: この文、意味不明。修正せよ。

12月30日 穂高平テント地 ⇒ 新穂高温泉 天気：雪

5:30 起床

7:30 穂高平発

8:30 新穂高温泉

9:48 解散、バス乗車

前日は18:30就寝だったため、たっぷりと寝ることができた。夜中雪は降り続いたが、テントの雪落としをするほどでもなく、テント撤収撤営は比較的簡単だった。アイゼンを付け、楽々下山。新穂高温泉まですぐだった。しかしここで、下山届を出し建物に入った後、突然吹雪になった。下山途中、これから我々と同じルートを登るパーティとすれ違い、こ

れから登るのはとても大変だと感じた直後には、我々はすでにもうバスの中で帰宅途中であったしていた。満員のバスで高山に着いた後は温泉につかり、汚れと疲れを取った。全員この日に帰宅できた。

#### ◆冬山合宿についての個人感想

##### 光岡 健

山岳部の部会に参加し、急遽この合宿に参加することとなったのだが、最高の合宿となった。初めての雪山とラッセル、アイゼン、始終快晴の空とテントから眺める見飽きない夕焼け。雪がたわわに積もった木々は、近くから見上げても、僕が登った最高地点、ジャンクションピークの手前から眺めても、今までに見たことないほど美しかった。先輩からは、雪山の技術をいくつも教わり、付いてきてくださった OB の先輩方からは面白い話を数知れず聞くこともでき、本当に感謝している。一つ心残りを言えば、雪上訓練（雪道掘りなど）をしたかった。次に機会があるときにぜひともしてみたい。OB の先輩は、現役の頃 60kg の荷物を持って北アルプス入山したり、そのために日々の生活で毎日のトレーニングをしたりしていたという話を聞いた。僕は、重い荷物持ってラッセルして体力を使い果たすことに満足していたが、まだまだスタミナが足りないことがわかった。さらに、岩稜帯を歩いている時、ロープを使った技術が明らかに不足していることが身にしみた。先生のおっしゃる「バテない体」作りと、ロープ技術の習得を、次の目標にしたい！

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

##### 山崎 史也

初めての冬山で初めての雪の上での山行は思っていた以上にしんどかった。一日目はラッセルすることもままならないほどバテてしまいチームの負担を増やしてしまった。やはり OB の方がおっしゃっていたようにバテない体作りが必要だと感じた。二日目からはようやくラッセルができるようになったがやはり体が思い通りに動かず自分の体力のなさを感じた。これからはとにもかくにも体力向上が第一優先で次に歩荷力を鍛えていきたいと思う。今回の冬合宿は OB の方々から多くのことを学びとても実りのある合宿であったと思う。

書式変更: フォント: 太字

##### 永田 拳吾

2 日目に腰を痛めてしまい、ペースが遅れ、アタックの日も途中で引き返すことになった。特に腰を痛めるようなことをした訳ではないにもかかわらず、かなり長い間痛みを引きずっており、原因がはっきりと分からない点が不安である。自分は歩き方に癖があるので、その点も踏まえ観察を続けるつもりである。今までの合宿では毎回靴擦れをおこしていたので、今回の合宿では厚手の靴下を 2 枚履きしていたが、これが良かったのかほぼ靴擦れを起こすことなく合宿を終えることが出来た。

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

去年・今年と冬合宿は尾根伝いの登山となったため、雪崩の危険を考える必要がある谷間を歩く経験がないのが気がかりである。来年以降の冬合宿ではこの点に留意したい。今年冬合宿は天候に恵まれ、比較的心に余裕を持ちながら登山を楽しめてよかった。過去二回の夏合宿と冬合宿では天候に恵まれずこれがリタイヤの一因となっていることを考えると、今後の合宿では直前の天気予報を踏まえ、合宿の開始日をずらすことを念頭にいれるのもアリではないかと思う。もっともこれは部員のスケジュールの調整に大きく負担をかけるので要相談といったところだろうか。

### 村松 弾

去年の冬山ではバテて足を引っ張ってしまったが、今年の冬山は積極的に行動できたと思う。去年よりもラッセルが楽だったせいもあると思うが、景色を楽しむ余裕もあった。ただ、アタックの後半ではさすがに疲れが出てしまった。今回は時間切れで頂上までは行けなかったが、もし時間に余裕があったとしても自分は頂上まで登れなかったかもしれない。今回の合宿では、ラッセルやテントではOBのアドバイスをいただくことができ、岩稜でのロープのフィックスの方法も知ることができた。また、アタックでは雪稜や急な雪面のトラバースなどを経験できた。全体としてはとても実りの多い合宿になったと思う。

<目標>

絶対にバテないくらい体力に自信をつける。登山はスタミナが大事と言われたので、普段の山行以外にも自主的にトレーニングをして体力に自信をつけていきたい。

### 中本 裕哉

#### ◆冬山合宿の反省 (チーフリーダー)

- ・計画と実施結果
- ・登山活動
- ・その他の事項

#### ◆各係の反省

##### 医療係兼食料係 (山崎)

冬山での水分確保はかなり重労働で重要であることを感じた。エッセンの中身でスニッカーズがあったが、あまりおいしくなかった。カンパンも大量に含まれていたがなかなか食べる気にならなかった。スニッカーズよりもブラックサンダーが良かったと感じた。夕食に関してはおもしろいことがとてもおいしかった。ペミカンカレーは量もちょうどいいと感じた。医療箱の温感湿布の数が少なかったため次回から枚数を増やさなければならないと感じた。

これからはとにもかくにも体力向上が第一優先で次に歩荷力を鍛えていきたいと思う。

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

コメントの追加 [n4]: チーフリーダーも書かねばならない。

コメントの追加 [n5]: 各係の反省の前に合宿自体の反省が必要である。(リーダーがまとめること)。

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

今回の冬合宿はOBの方々から多くのことを学びとても実りのある合宿であったと思う。

### 交通係 (永田)

年末は夜行バスの空席がすぐに埋まってしまうので、予約をとる場合は早めに済ませておかなければならない。

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

### 装備係 (村松)

OBからの指摘も合わせて装備をいくつか付け加えたが、なかでも小型ほうきはなかなか良かった。雪を落とすにはたわしよりも適している。V4テントはペグを埋めるための網がついていなかったの、次の合宿までに付けておく必要がある。また、ペグももう少し小さいものでもよいという指摘も受けたので、改善しておきたい。

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

### 気象係 (光岡)

山頂を目指した12/27~29は快晴で天気大変恵まれた。しかし、下山直後に吹雪に見舞われ、日程を伸ばしていたら登山が困難になっていたと予測される。12/30~31で大寒波が来るという予報を考慮し、ACまで早めに登ったなど全体的に日程を繰り上げたことの功が奏したと言える。12/28には、天気が荒れる兆しの飛行機雲やいわし雲、気温上昇も観測され、実際その通りとなった。気象の視点から、今回の合宿は成功と言える。

書式変更: フォント: 太字

### ◆OBからの指摘

#### 山崎

- ・稜線を下るときは斜面に対して垂直にたつこと。とても怖いので慣れが必要だと感じた。
- ・夜トイレに行くときテントシューズで外に出ても問題がないこと。
- ・嗜好品の類いはケチらずにどんどん使うこと。荷物の重量が減ってありがたい。
- ・斜面のラッセルを行う場合、斜面に対して鋭角に蹴り込むと斜面に流されることなくきれいに足場が作れること。

#### 永田

- ・竹ペグは頭までしっかりと打ち込むこと。今回は比較的天候に恵まれていたから良かったが、竹ペグの打ち込みが甘いとテントが飛ばされかねない。
- ・ラッセルのトップはしっかりと足場を固めながら進むこと。トップの役割はただ先に立って歩くことだけではなく、後続の足場を固めることである。ザックを背負っていない分、沈み込みが浅いことも考慮に入りたい。
- ・アイゼン、ワカンと同時に履くときはアイゼンをつけた後、ワカンの爪を上にして履くこと。

書式変更: フォント: 太字

## 村松

空荷でラッセルするとき、先頭は歩幅を小さくする。→ セカンドの負担を軽減するため

・深いラッセルの手順

①目の前の雪を、シャベルを使ってなるべく多くかき落とす。

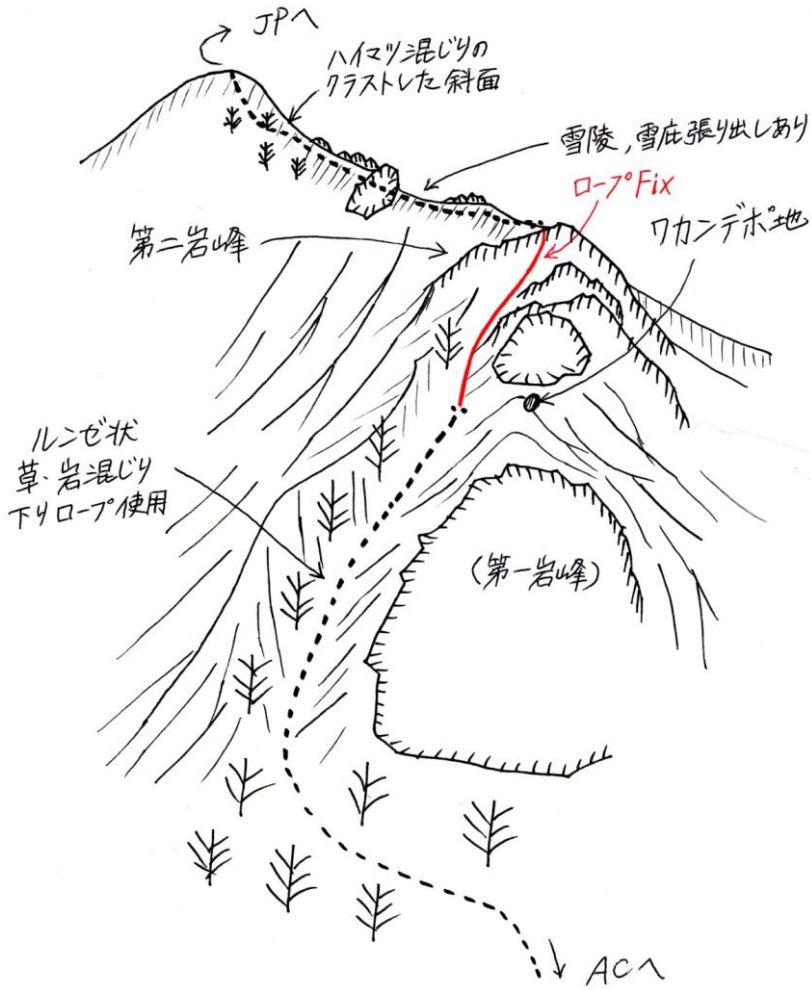
②膝で押し固める。

③押し固めたところに、斜面に垂直に足を蹴り込む。

→蹴り込む角度が浅いと滑ったり足場が崩れる。現役は蹴り込む角度が浅いことを指摘された。

以下の図は、西尾根の核心部 (村松スケッチによる)

# <第一、第二岩峰>





<JP ~ 2800m? ピーク>

- △ 小ピーク
- 雪陵・尾根
- ⊖ 岩場

